

平成26年度「全国学力・学習状況調査」における 槻田 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成26年4月22日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語・算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査

主として「知識」に関する問題 【国語A・算数A】	主として「活用」に関する問題 【国語B・算数B】
<ul style="list-style-type: none">・ 身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容・ 実生活において不可欠であり、常に活用できているようになっていくことが望ましい知識・技能	<ul style="list-style-type: none">・ 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力・ 様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

(2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

槻田 小学校「平成26年度 全国学力・学習状況調査」の結果について

1. 教科に関する調査結果の概要

① 学力調査(国語A・B、算数A・B)結果

・本校の結果

国語A	全国平均正答率を上回っている。
国語B	全国平均正答率を上回っている。
算数A	全国平均正答率を上回っている。
算数B	全国平均正答率を上回っている。

(資料) 本市・全国の結果【平均正答率】

		国語A	国語B	算数A	算数B
平成24年度	本市	79.4	52.2	70.4	56.1
	全国	81.6	55.6	73.3	58.9
平成25年度	本市	60.3	46.3	74.6	56.5
	全国	62.7	49.4	77.2	58.4
平成26年度	本市	69.1	52.6	76.2	55.4
	全国	72.9	55.5	78.1	58.2

② 学力調査結果の分析

国語A	全体的な傾向や特徴など	・全体的には、全国平均正答率をやや上回っていたが、漢字の読み書きの正答率が、全国平均よりやや低く、課題がある。 ・全体的に無解答率が低く、基本的な問題に自分なりに努力することができるようになったことが伺える。
	よくできた問題	・故事成語の意味と使い方についての問題や、情景描写の効果をとらえる問題。
	努力が必要な問題	・国語辞典を使って、言葉の意味と使い方を理解する問題。

国語B	全体的な傾向や特徴など	・全体的には、全国平均正答率をやや上回っていたが、書く力を問う問題に課題があり、書くことを習慣化する必要がある。
	よくできた問題	・二つの詩を比べて読み、表現の工夫や、詩の解釈における着眼点の違いをとらえる問題。
	努力が必要な問題	・立場を明確にして、質問や意見を述べる問題や、分かったことや疑問に思ったことを整理し、それらに関係付けながらまとめて書く問題。

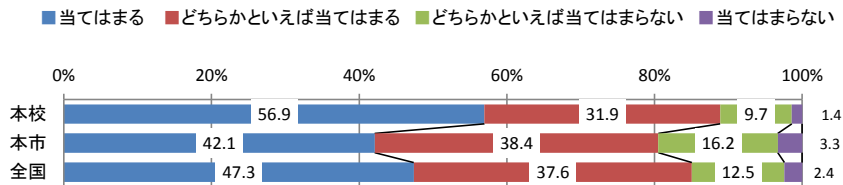
算数A	全体的な傾向や特徴など	・全体的には、全国平均正答率をやや上回っていた。特に、図形の正答率が高く、量と測定の正答率が低くなっている。
	よくできた問題	・小数の減法や除法の問題。
	努力が必要な問題	・単位量当たりの大きさを求める問題や、数量関係を式に表す問題。

算数B	全体的な傾向や特徴など	・全体的に全国平均正答率を上回っていた。記述式の問題にも、粘り強く取り組み、正答率が高くなっている。
	よくできた問題	・数と計算、図形、数量関係の問題。
	努力が必要な問題	・量と測定、特に全体と部分の関係を示すために用いるグラフを選択する問題。

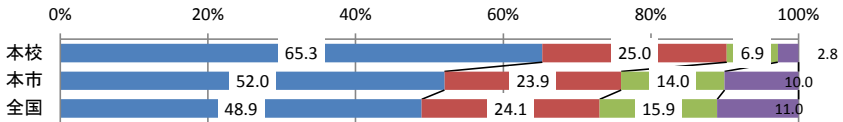
③ 学校での学習状況に関する調査結果

質問番号
質問事項

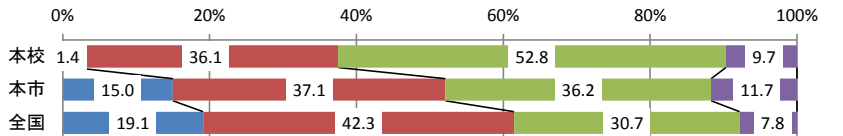
43
授業では、生徒の間で話し合う活動をよく行っていると思いますか



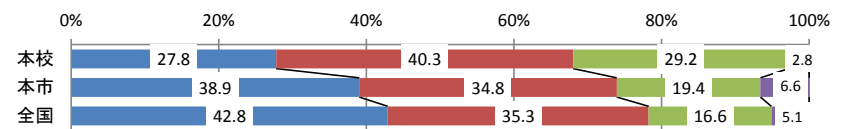
53
読書は好きですか



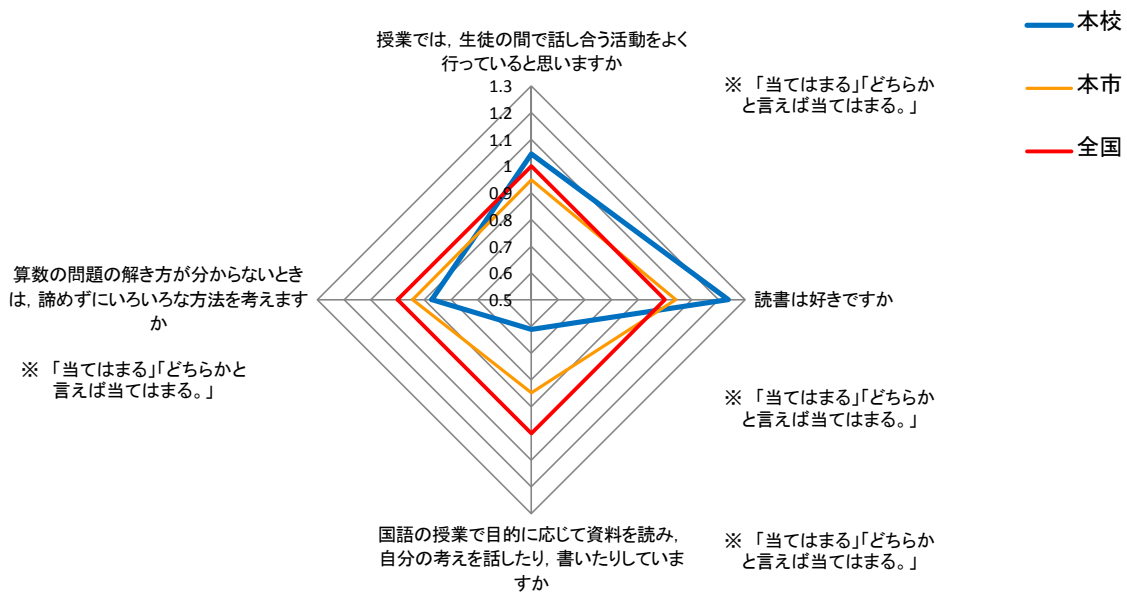
55
国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか



66
算数の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考えますか



④ 本校と本市の対全国比(全国を1とする)



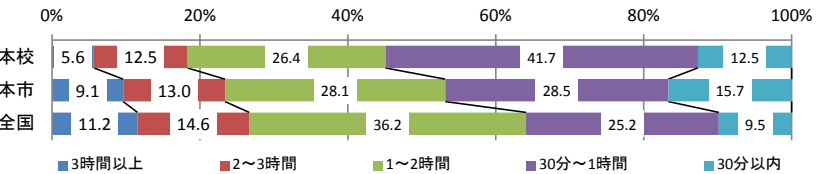
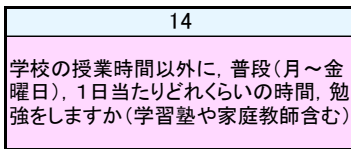
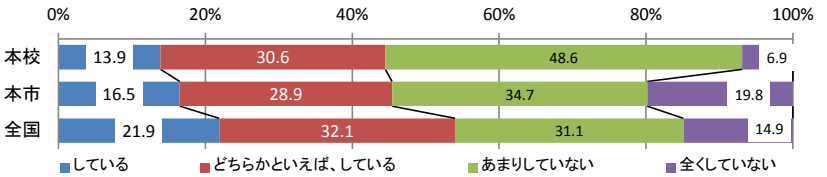
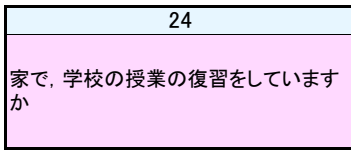
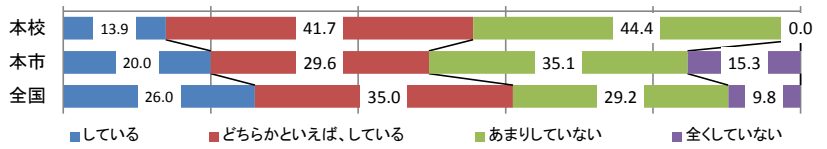
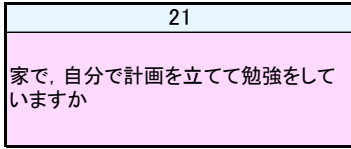
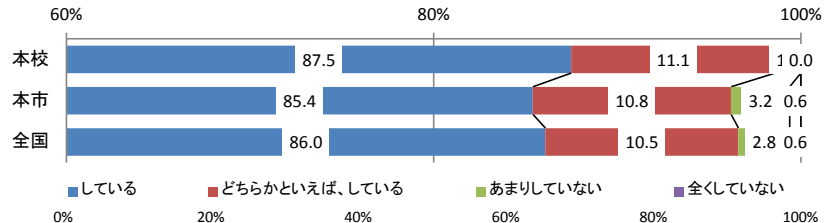
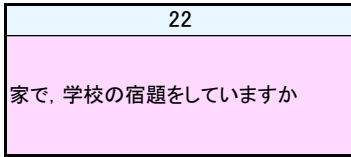
⑤ 学校における学習状況に関する調査結果の分析

・話し合い活動は全国平均を上回って来ており、全校で話し合いに取り組んでいる成果が出てきている。しかし、算数の学習では、問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考えていると解答した児童の割合が全国平均を大きく下回り、自分で問題解決をしようとする意識が低い。

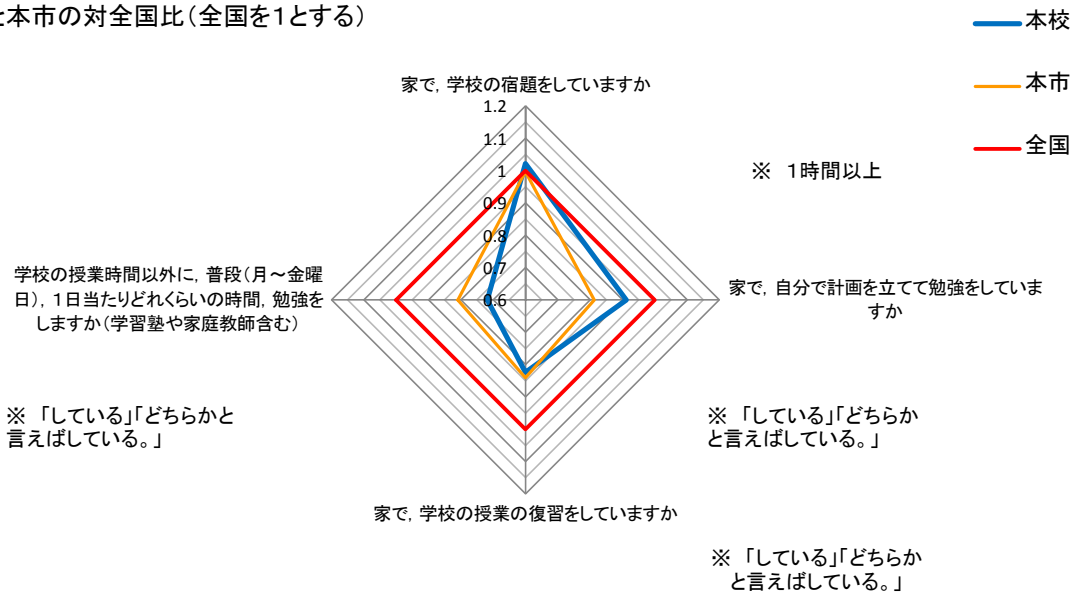
・読書が好きな児童は、90%以上ととても多いが、国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしている児童は、全国平均を大きく、下回る。

2. 家庭生活習慣等に関する調査結果の概要

① 家庭学習習慣に関する調査結果



② 本校と本市の対全国比(全国を1とする)



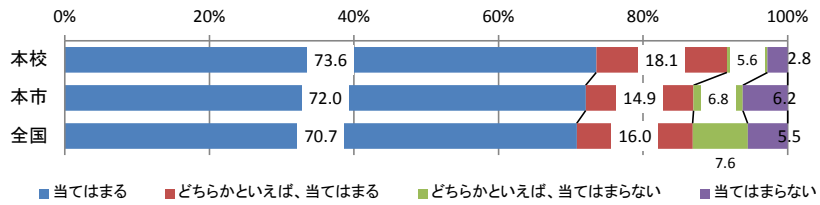
③ 家庭学習習慣に関する調査結果の分析

・家庭学習の時間が、全国平均と比べると短い結果となった。宿題はしているものの自主的な家庭学習として、全校で時間のめやすや具体的な取り組み方を提示する必要がある。

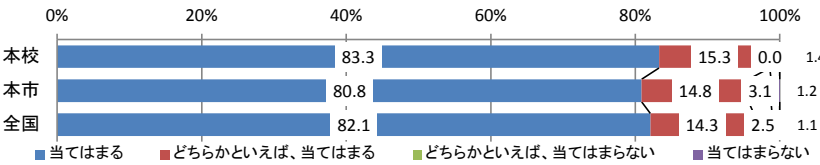
・宿題をしている児童の割合が全国より高いものの、自分で計画して勉強したり、家で学校の授業の復習や予習をしたりしている児童の割合は全国より低く、課題である。

④ 生活習慣等に関する調査結果

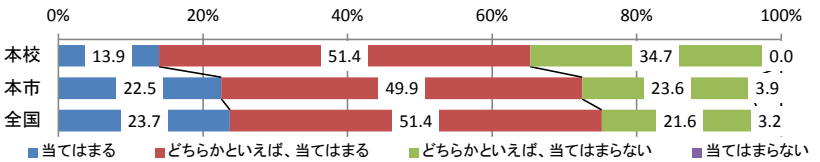
10
将来の夢や目標を持っていますか



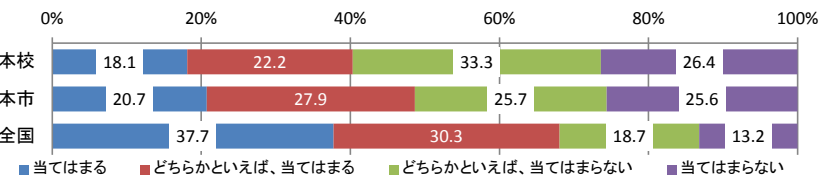
37
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか



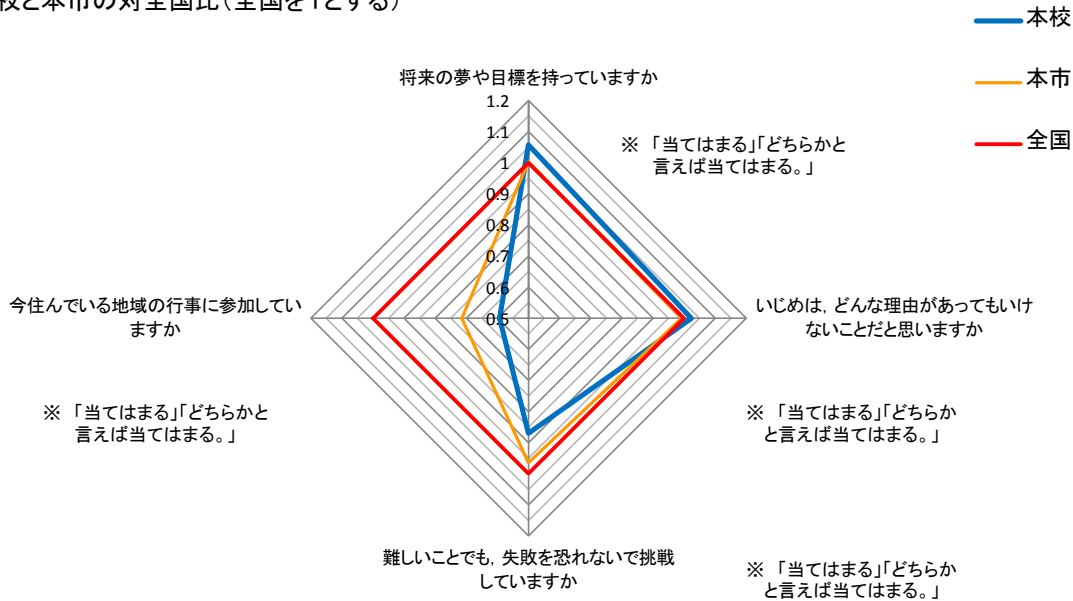
5
難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦していますか



29
今住んでいる地域の行事に参加していますか



⑤ 本校と本市の対全国比(全国を1とする)



⑥ 生活習慣等に関する調査結果の分析

・将来の夢や目標を持っている児童が91.7%と多いものの、難しいことでも失敗を恐れずに挑戦する気持ちが全国より低く、課題である。
 ・地域や社会で起こっている問題や出来事に関心が低く、地域の行事に参加する児童も少ない。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

※ 「◎」は現在取り組んでいること 「○」は今後取り組むこと 「・」は事例

- ◎ 学力向上のための特設時間の実施
 - ・朝自習の時間を〈槻田タイム〉として設定し全校一斉に実施
(月曜日算数 火曜日読書 木曜日ミュージックタイム 金曜日国語)
 - ・小中連携サポーター・・・計画的な配置、活動補助、プリント整備
- 朝自習で取り組むプリントに系統性をもたせて学校で統一して準備し、繰り返し練習することで基礎基本の定着を図る。
- ◎ 過去問題、アシストシート、活用力を高めるワークの活用
 - ・アシストシートやWEB問題を授業の導入で使い、基礎基本の徹底を図る。
 - ・アシストシートと過去問を冊子にして、冬休み・春休みの「宿題帳」とする。
- 「書く」ことを習慣化
 - ・学習の最後、3分間を「振り返りタイム」として、本時の振り返りを書かせるようにする。
- ◎ ひまわり学習塾との連携
 - ・個々の課題と指導について担任・講師間の情報交換を行う。

② 家庭生活習慣等に関する取組

※ 「◎」は現在取り組んでいること 「○」は今後取り組むこと 「・」は事例

- ◎ 宿題のスタンダード化(時間、学年別・教科別内容)
 - ・自主学習ノートの活用(全員に持たせる)
 - ・家庭学習時間の設定(1年生30分2年生30分3年生40分4年生40分5年50分6年生1時間)
 - ・「家庭学習の約束」の作成・実施
 - ・「家庭学習チャレンジハンドブック」の活用(回収チェック 学期に2回)
 - ・家庭学習マイスター賞への応募
 - ・冬休み・春休みの宿題に、過去問題やアシストシート、WEB問題を活用
- ◎ 全国学力・学習状況調査の課題と取組等を保護者へ周知
 - ・学校便り・学校HP